

エッセンシャルガイド 「グラフィックユーザーのための機能ハイライト」

Essential Guide for Graphic Users



Graphics

- 18 多彩なグラフィックエレメントの
装飾効果
- 20 InDesignで画像データを
コントロールする

Output

- 22 ネイティブで「PDF」で、
さまざまな入稿形態に柔軟に対応する

Typography

- 10 文字を組む前に
しておくべき設定
- 12 フォーマットの要、
「本文」を設定する
- 14 「ページ」を構成するための
基本的な機能
- 16 タイポグラフィを支える
さまざまな機能

Format

- 8 新規ドキュメントを作る

What is InDesign

- 9 InDesignでのドキュメント作成フロー **【概要】**

Gallery

- 4 InDesignによる装幀、エディトリアルデザイン
の現状

これからのページデザインの
スタンダードはここにある
表現したいこと、意のままに
Adobe InDesign CS2

Adobe® InDesign® CS2 日本語版

「日本語DTPの新しいスタンダード」。それは、InDesignに課せられた使命でもあります。InDesignの組版エンジンは、従来の「写植組版」の考え方がベースとなっており、JIS規格の組版規則に準拠した文字組みを簡単に実現できます。カスタマイズも自在なので、ペタ組みで精密に組む、あるいは豊富な字詰め機能を駆使して直感的に組むなど、仕事にあわせてフレキシブルな対応が可能となります。旧バージョンよりもさらにブラッシュアップされたタイポグラフィ機能は、高い品質を求められるデザインの現場で広く受け入れられています。

本ガイドでは、InDesignを象徴する機能ともいえる「グリッドフォーマット」を使い「新規ドキュメント」を作るプロセスを、順を追って具体的に解説しています。各プロセスにおいて、「フレームグリッド」と「テキストフレーム」の違い、フォーマットの要である「本文」組版の基本的な設定方法、そしてその設定を効率的に運用するために有効な「段落・文字スタイル」などの基本機能について紹介します。このプロセスは、InDesignを使用してさまざまなドキュメントを作成するための基本手順として、必ず役立つことと思います。InDesignでは、グラフィックエレ

メントや画像の柔軟なハンドリング機能も目が離せません。PhotoshopやIllustratorのネイティブデータはもちろん、PDFを素材としてレイアウトすることも可能です。さらに透明機能が、平面的になりがちなページデザインを、立体的表現へと広げます。入稿のための印刷用データのスタンダードになりつつある「PDF/X-1a」への対応も万全。メニューから選択するだけで、印刷用のPDFデータを作成できます。白紙の状態から入稿まで、思いついたアイデアを、ダイレクトに実現するツール、InDesign CS2をぜひ体感してください。



InDesignによる装幀、エディトリアルデザインの現状

悠悠おもちゃライフ 森博嗣 小学館



悠悠おもちゃライフ 森博嗣著 (小学館)
装幀イラストレーション十
本文レイアウト 坂野公一

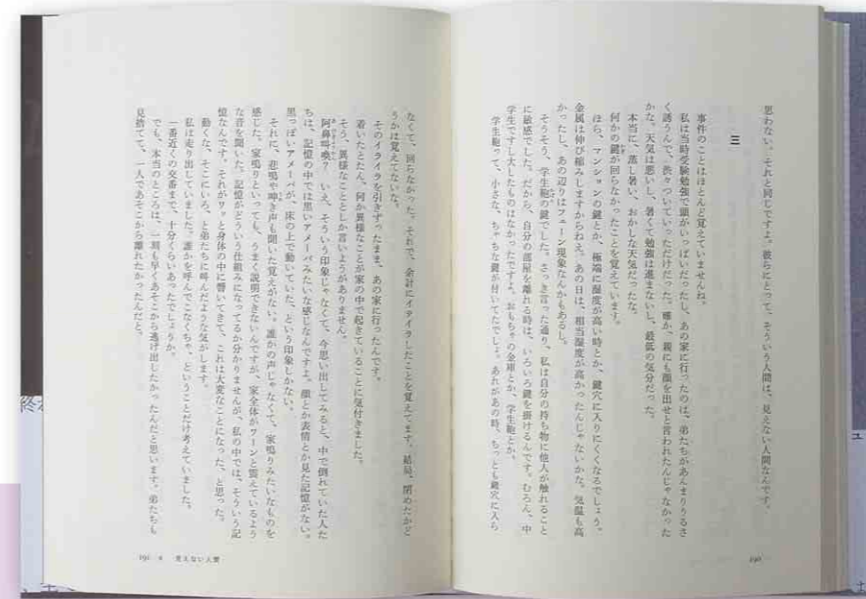


▶完成した書籍の見開き(左)と作業中の画面(下)。高品質の画像プレビューにより、常に完成イメージを確認しながら作業できる。

Gallery

InDesignを使用してデザイン、レイアウトされた書籍を紹介します。組版やページアップ作業では、高い機能と精度により、従来では不可能であった処理が可能になったり、作業効率が大幅に向上するなどのメリットがあります。

ユージニア 恩田陸 角川書店



ユージニア Eugenia フォーマット第2版ver.01 2004.11.23
天地188×左右128

テーマは、「断簡」。小口付近42字詰め、ノド付近41字詰め、天地位等横ラインそろいそうでもろわいな。

本文組
漢字 若田明昭M オールド
ひらがな 若田明昭体 (R) オールド
カタカナ 秀英5号J
(仮名文字系は、グラフィックセンター)
13線ベタ
設定版面1行42文字 (136.5ミリ)
設定おろるがらあり
設定組版のみで追い出し (均等割)
行送り22画 (5.5ミリ)
ブロックで時計回りに1度回転
(左図の×を軸に)

本文異相化
1 読音・読音は、ひらがな、カタカナともに右上に寄せる。……これくらい！
2 読点は、横に150%の変形。見た目自然な位置に、横に長く
3 ひらがなの「で」「に」「を」「は」「へ」のみ、角度を1度、ひずませて紙面に対してまっすぐに。
4 組野様
これでどうでしょう？
流し込みの時間、大丈夫になりますか？
5 秀5のオープンタイプで、まだできてませんし……流し込み、落ちちゃいますか？
祖父江慎

側面ページ
ここを軸に
ブロックで
-1度回転

黄色い面は、テキスト回り込みオブジェクトです。
(仕上がりではみえないように)
偶数ページは、天のみ。奇数ページは、地のみ。
小口より約1行は、ベタで1行42文字入り、のじより約8行は、ベタだと1文字分次行に送られてしまうように配置。

各章扉は、一丁取り。
章扉後の奇数ページからスタート。
小見出しの数字は、3行取りセンター
3行3割アケ
級数ママ、書体MB101-B1。

ここを軸に
-1度回転

縦ナンバー (2バイト数字) と 縦タイトルは、頭揃え
8線
ゴシックB B B メディウム 字送り10画

ノズル 奇数ページも偶数ページも縦リ揃え
11線 Caslon Five Forty Roman SC
和文柱の天地にエクサハイト揃える。

▶祖父江慎氏による本文組版の指定紙。本文ブロックの傾き、特殊な書体の組み合わせによる合成フォントの活用など、InDesignのタイポグラフィ機能をフル活用している。InDesignによって従来では不可能であった文字組版、レイアウトが実現できるようになった。

ユージニア 恩田陸著 (角川書店)
装幀十本文設計 祖父江慎十cozfish
フォントディレクション十組版 組野慎一 (凸版印刷)

InDesignでの ドキュメント作成フロー [概要]

InDesignで作業を開始する前に、作成する書籍やカタログなどの基本体裁を設計しておく必要があります。たとえば用紙のサイズ(判型)、文字組の方向(横・縦組み)、基本となる文字の大きさなどです。それから新規ドキュメントを作成し、ベースとなる設定を行います。この基本体裁の設計こそが非常に重要なことであり、それが「フォーマット」の骨子となります。

体裁設計

0

体裁を設計する

判型、縦組み、横組み、文字級数や行送り(=収容する文字数)、コラム数など。

* InDesignの作業前段階

各種設定 (フォーマットの作成)

1

新規ドキュメントを作る

A レイアウトグリッドで作る **推奨**
B マージン/段組で作る

2

合成フォントの設定
文字組みアキ量設定

合成フォントの設定
文字組みアキ量設定

レイアウト

3

文字・段落設定
[基本段落の設定]

文字・段落設定を
基本段落(段落スタイル)に登録

4

テキストの配置・調整

A プレーンテキストフレームで配置する
B フレームグリッドで配置する **推奨**

5

画像データの配置

写真画像や、PhotoshopやIllustrator
で作成した画像データを配置する

フィードバック

フィードバック

フィードバック

フィードバック

フィードバック

レイアウトを進めながら
問題点をフォーマットに
フィードバック

InDesignでのレイアウトが進行していくと、フォーマットを見直さなければならない場合に直面することがしばしばあります。たとえば、思ったよりもテキストが増えた(級数を下げたい)、ページ数が増えるために「のど」の食われが気になった(マージンを広げる)などです。これらの場合、問題点をフォーマットの設定に反映させる作業が発生します。このようなことを想定し、フォーマットデータでは、それぞれの設定項目の関係性を把握しておくことが重要です。

文字段落設定を事前に行っておけば、その設定を変えるだけでテキスト関係は一括して変更できます。個別に対応すると、時間も気が遠くなるほどかかり、ドキュメントの精度も低下します。

InDesignでは途中で設定を変更することも容易なため、完成度の高いフォーマットデータを作り込むことができます。

出力・入稿

6

印刷用データの作成
[ネイティブデータ/PDF/X-1a]

InDesignは高機能で、実現できることが多彩な反面、

どのように使えばよいか分かりにくいという声を聞きます。

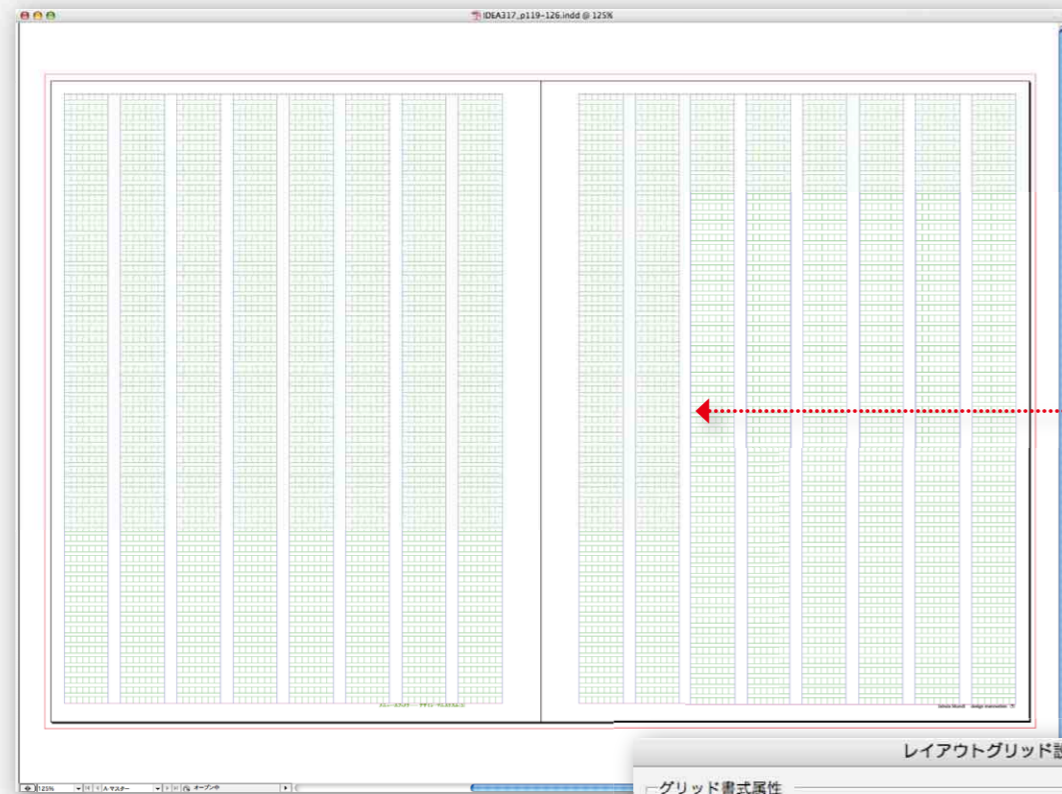
ここではInDesignによる基本的なドキュメント作成方法をご紹介します。

まずはこのワークフローをご覧ください。更なる詳細は、次ページ以降で解説します。

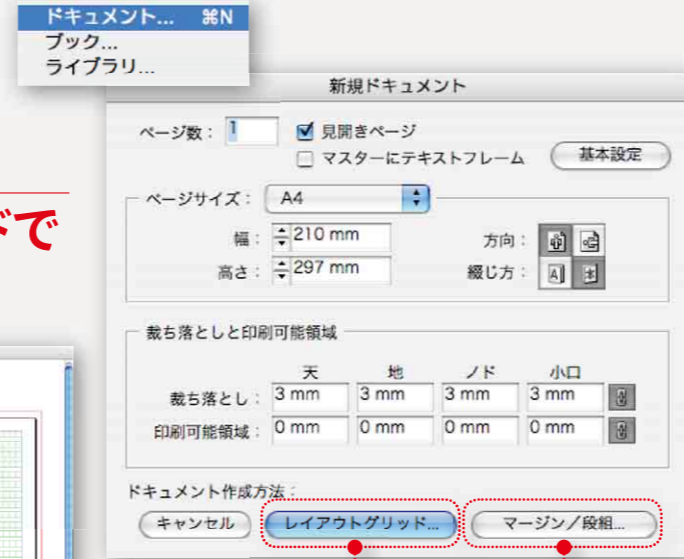
What is InDesign?

1 新規ドキュメントを作る

InDesignで新規ドキュメントを作る場合、「レイアウトグリッド」と「マージン/段組」の2つの作成モードから選択することになります。この違いについて解説します。



A レイアウトグリッドで作る **推奨**



[テキストを主とするもの]

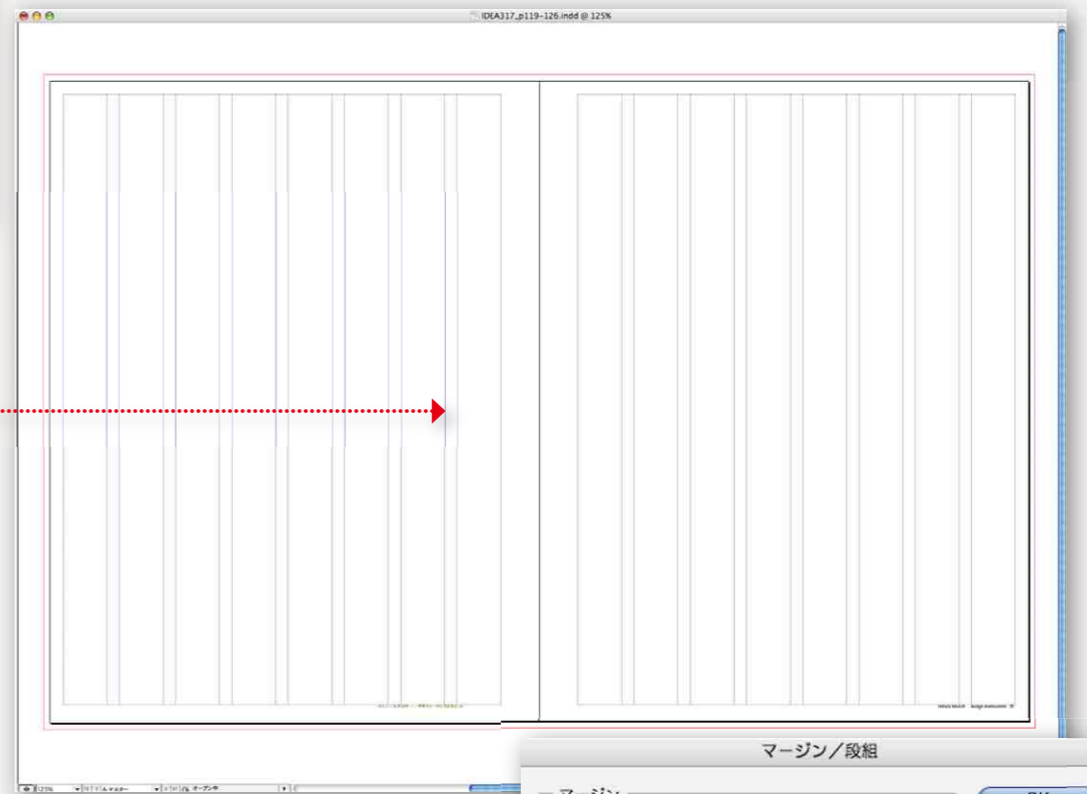
に適しています。

文字組版を精密に行いたい場合や、グリッドを重視したレイアウトを行う場合、「レイアウトグリッド」を選択します。レイアウトをしながら設定を詰めていく、というよりは、事前に計画された設定をデータ化していくというプロセスとなるため、文字級数や行送りなどをあらかじめ決定しておくことが作業をスムーズに進める秘訣です。

例) 小説や新書などの定形レイアウト



B マージン/段組で作る



[テキストを主としないもの]

に適しています。

グリッドや精密なテキストのレイアウトを重視しない場合は、マージン/段組設定でページを作成します。詳細な設定をすることなくページを作成することが出来るため、いち早く写真やテキストを配置したい、という時に便利です。

例) 欧文主体の印刷物や、雑誌やムックなどの不定形レイアウト

どちらで作るべきか?

フォーマットを作成する場合、ベースとして採用する「文字の級数」を基本にした整数倍の構造でグリッドを設定することが一般的です。

例えば本文級数13Q/行送り22H、何文字何行収容するかを考えましょう。「レイアウトグリッド設定」では、これらの数値を「レイアウトグリッド設定」ダイアログに入力するだけで簡単にグリッドとマージンを作成できます。一方「マージン/段組設定」で同じフォーマットを作る場合、電卓などで一行に入る文字数や行数の数値を正確に計算する必要があります。例えば13Qで1行あたり37文字=481Q(120.25mm)となります。かつ判型からこの数値を差し引いた数値をマージンとして割り振ります。結果としては同じことですが、設定の容易さや後からマージンなどを再編集する場合、「レイアウトグリッド設定」の方が簡単に行えます。

Format

新規ドキュメントを作成する際にはじめに選択するのが作成方法です。

InDesignでは、旧来の「写植指定」のような感覚でページを作るモードと、よりフレキシブルにページをレイアウトするためのモードの2つを備えています。

ここでは、2つのモードの違いを見ていきましょう。

2 文字を組む前にしておくべき設定

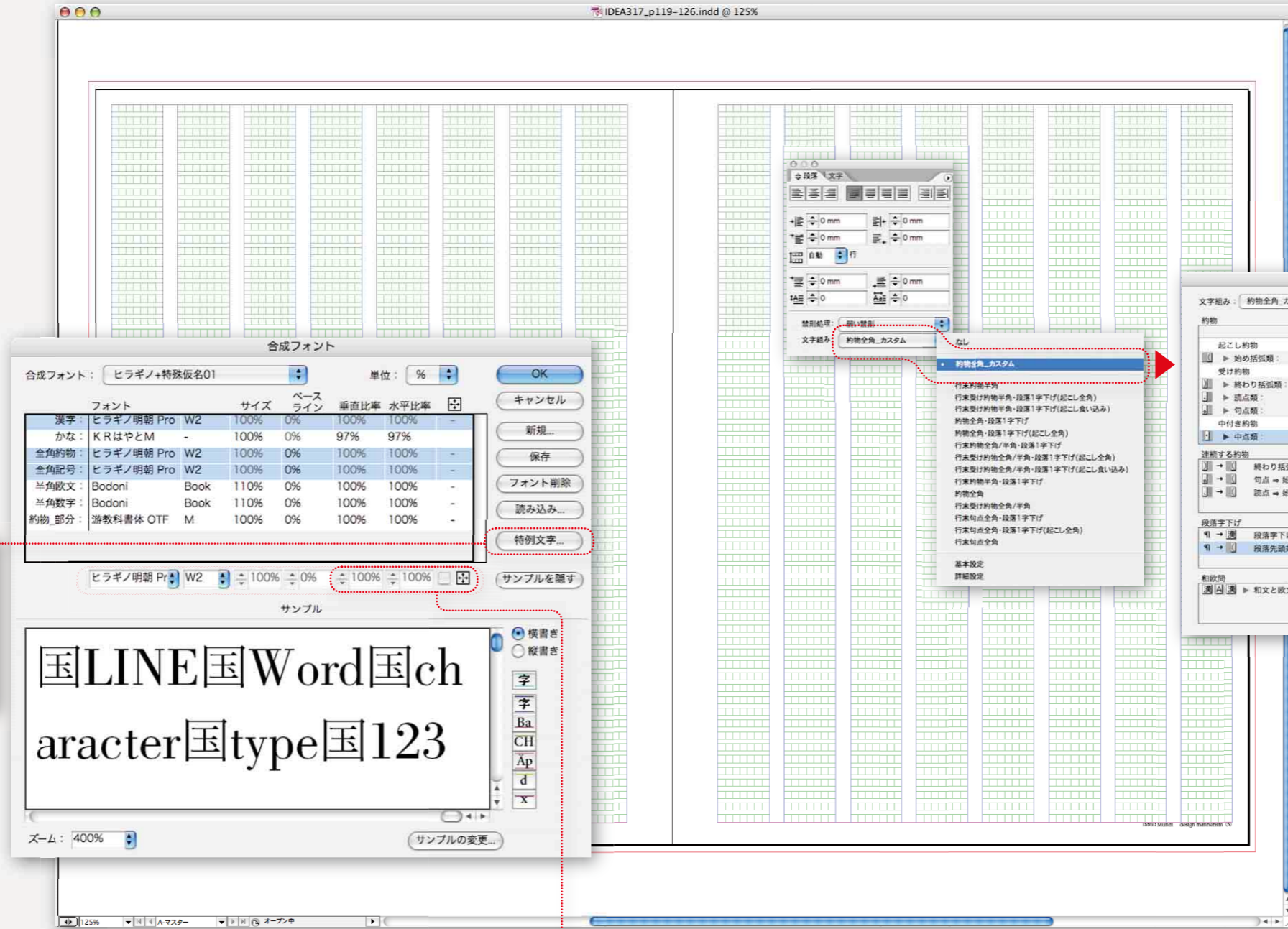
テキストを配置する前に、書体と文字詰めの方針を設定します。書体の設定としては、合成フォントを作成します。また、文字詰めとしては、文字組アキ量の設定を行います。これらは、テキストを配置した後から視覚的に調整することも可能です。

合成フォントの設定

既存のフォントを組み合わせることで独自のフォントセットを作る機能が合成フォントです。一般的に書体中の「かな」を別のフォントに変えるだけで書体の表情を大きく変えることができると言われます。合成フォントは組版作業を始める前に作成する方が効率的です。合成フォントの編集は組版作業後も勿論可能です。また別なドキュメントから合成フォントを読み込んだり、書き出しすることもできます。

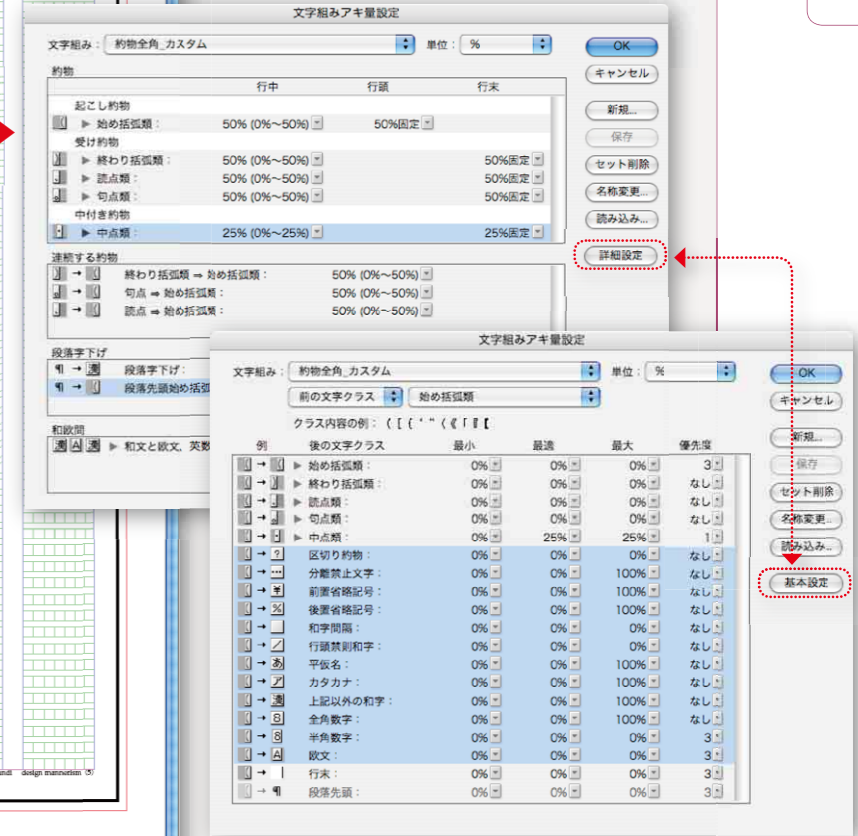


▶全角約物や全角記号などの特定の文字だけを別な書体に変更したいときは、特別文字セットで指定する。例えばウエイトの太いゴシックの括弧類のみを細いゴシックにしたい、句読点だけを明朝系にしたい時などに効果的。



文字組みアキ量設定

InDesignでは、JIS規格に準拠した基本的な文字組みアキ量設定が用意されており、選択するだけで適用できます。また、設定を変更して、行頭のかき弧はどれくらい下げられるか、段落一行目を字下げするか、和文と欧文の間隔をどれくらいに設定するかなど、厳密に設定して独自のアキ量設定を定義できます。目的とする組版に近い設定をベースに、自分の求める設定に調整していく方法がおすすです。

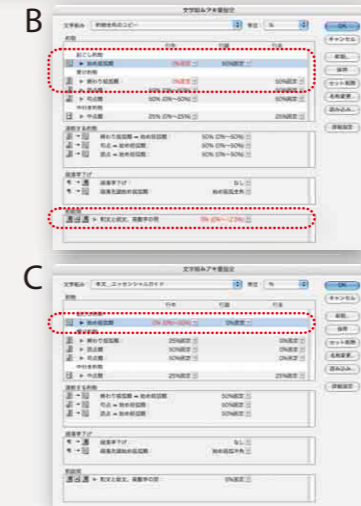


▶約物全角をベースにアキ量設定を編集する画面。基本設定では約物や字下げ、和欧文間隔ごとに設定する。詳細設定では、文字の組み合わせごとに、間隔を設定することも可能。

Typography

ページレイアウトを行う場合、本文の設定が最重要と考えます。エッセンシャルガイドでは、本文の設定を作っていく過程を中心にInDesignの高度な文字組版機能を紹介していきます。

▶かなは漢字部分に対して個別のサイズを設定できる。たとえば小さくすることで「小がな」書体に。チェックボックスを「オン」にしておけば、文字を小さくしても字送りは維持される。「オフ」にすると、縮小率に応じて字送りも変更される。



設定例

- A 「漢字」とカナとalphabet、(括弧など約物)漢字カナ。
- B 「漢字」とカナとalphabet、(括弧など約物)漢字カナ。
- C 「漢字」とカナとalphabet、(括弧など約物)漢字カナ。

Aはデフォルトの「約物全角」設定。括弧類は全角扱い、欧文と和文の間隔は25%アキとなります。BはAをベースに欧文と和文の間隔を0%に変更。Cはさらに行頭の括弧を天付きとしたもの。本エッセンシャルガイドでは、この設定で組まれています。自分の好みの設定をいくつか作成しておき、いろいろな仕事に備えることができます。

3.4 フォーマットの要、「本文」を設定する

ここではよいよ本文の設定と配置を行います。ページレイアウトでは、何よりも本文をしっかり作ることから始め、次いで見出しや脚注、通し約物（ノンブルや柱）へと、順を追って設定していきます。これは本文に施した基本設定を他の要素に無駄なく継承させるためのセオリーといえます。

文字・段落設定 (基本段落の設定)

ドキュメント内で基本となる文字・段落設定（例えば本文）を、「基本段落」として登録しておきます。

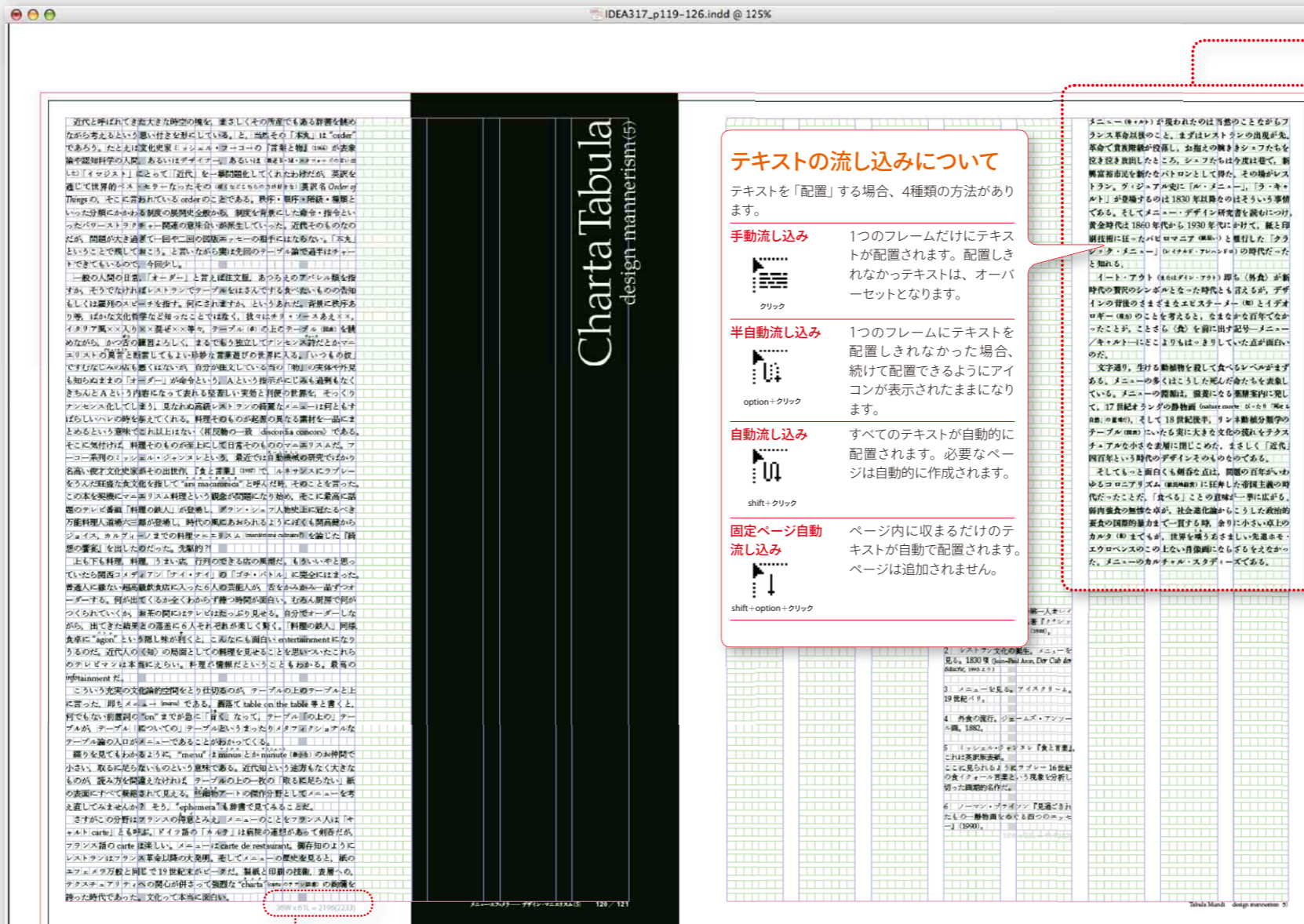


▶段落スタイルパレットの「基本段落」ダブルクリックし、段落スタイルを編集する。

事前に登録した「合成フォント」や「文字組みアキ量」を指定できます。配置したテキストに段落スタイルを適用すれば、望んだフォントと文字組みが適用されます。配置後の修正する場合も、「合成フォント」「文字組み設定」を変更するだけで、スタイルの適用段落に自動で反映されます。



▶小見出しや脚注など、本文以外の文字・段落を設定する際、「基本段落」をベースにすると、「基本段落」の設定が継承される。また「基本段落」の設定を修正すると、「基本段落」をベースにした段落スタイルは、変更内容が一括して反映される。



テキストの流し込みについて

テキストを「配置」する場合、4種類の方法があります。

- 手動流し込み** クリック
1つのフレームだけにテキストが配置されます。配置しきれなかったテキストは、オーバーセットとなります。
- 半自動流し込み** option+クリック
1つのフレームにテキストを配置しきれなかった場合、続けて配置できるようにアイコンが表示されたまになります。
- 自動流し込み** shift+クリック
すべてのテキストが自動的に配置されます。必要なページは自動的に作成されます。
- 固定ページ自動流し込み** shift+option+クリック
ページ内に収まるだけのテキストが自動で配置されます。ページは追加されません。



テキストの配置

テキストを配置するためには、テキストフレームを作成する必要があります。テキストフレームには2つの種類があります。

A プレーンテキストフレーム

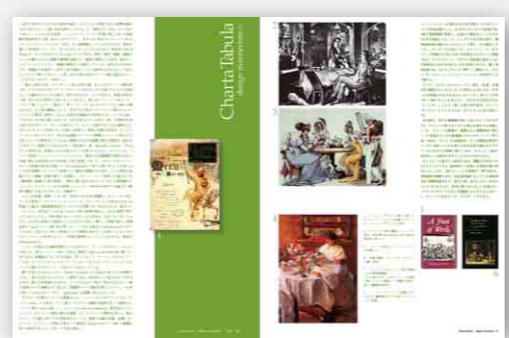
一般的なテキストボックスがプレーンテキストフレームです。フレーム自体に文字設定などが不要なため、簡単にテキストをレイアウトできます。反面、文字のサイズや行送りによってフレキシブルに変換するため、厳密なベタ送りなどを維持する場合には注意が必要です。

近代と呼ばれる大きな時空の塊を、まさしくその所産でもある辞書を眺めながら考えるという思い付きを形にしている。と、当然その「本丸」は「order」であろう。たとえば文化史家ミッシェル・フーコーの『言葉と物』(1966)が表象論や認知科学の人間、あるいはデザイナー、あるいは「イマジスト」にとって「近代」を

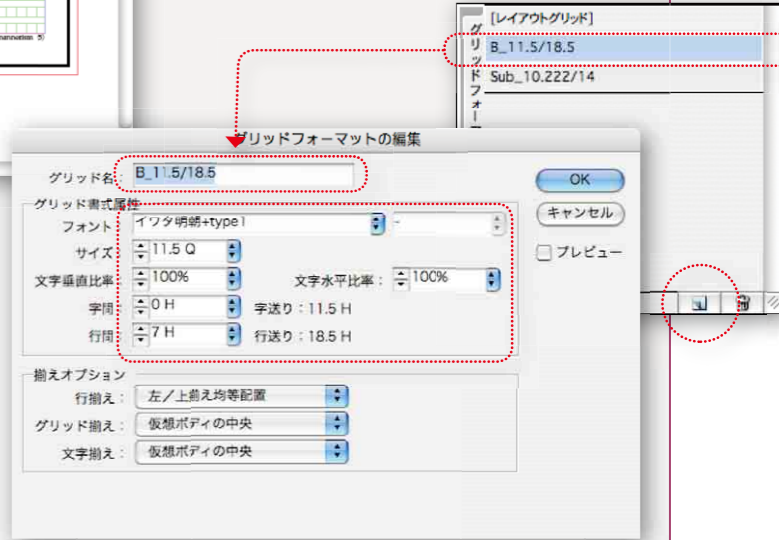
B フレームグリッド 推奨

フレーム自体に文字設定を行い、グリッドを持たせる日本語組版用のテキストフレームです。フレーム自体が文字・行単位での可動しか受け付けられないため、フレームグリッドのサイズを変更しても、厳密な字送りを維持させることができます。

近代と呼ばれる大きな時空の塊を、まさしくその所産でもある辞書を眺めながら考えるという思い付きを形にしている。と、当然その「本丸」は「order」であろう。たとえば文化史家ミッシェル・フーコーの『言葉と物』(1966)が表象論や認知科学の人間、あるいはデザイナー、あるいは「イマジスト」にとって「近代」を



ビジュアル要素もレイアウトして完成した誌面。「アイデア 318号『デザインミニエリズム』高山宏(誠文堂新光社)



▶フレームグリッドの文字設定をスタイルとして登録するのがグリッドフォーマット。グリッドフォーマットパレットに新規レイアウトグリッドを作り、内容を設定して登録。グリッドフォーマットツールで作成したフレームグリッドを選択し、グリッドフォーマットパレットで作成したグリッド名をクリックすれば設定が反映される。

4 「ページ」を構成するための基本的な機能

ページ構成の核となる本文を作ったあとは、見出しや通し約物（ノンブルや柱）などの設定が必要です。特にグリッドベースのレイアウトを構成するためには、見出しの行送り管理も重要なポイントになってきます。また見出し類で詰組みをする場合、「文字詰め」のサンプルも参照してください。



文字詰め

さまざまな文字詰め機能が用意されています。複合的に使用することで、目的の文字詰めを作ることができます。以下にその特徴を紹介します。

1 カーニング:和文等幅

和文フォントの字送りを等幅に設定します。ベタ組みなどで使用します。
日本語と「にほんご」、alphabet と 123

2 カーニング:メトリクス (ペアカーニング)

特定の文字同士が並んだ時のペアカーニング情報を基に文字を詰めます。
日本語と「にほんご」、alphabet と 1234

3 カーニング:数値指定

2つの文字間の間隔を調整することができます。
日本語と「にほんご」、alphabet と 12345

4 字送り (トラッキング)

選択した文字列に対して、間隔を設定します。
日本語と「にほんご」、alphabet と12345

5 文字ツメ

文字ツメを適用すると、文字の周りのアキが同じ割合で詰まります。
日本語と「にほんご」、alphabet と 12345

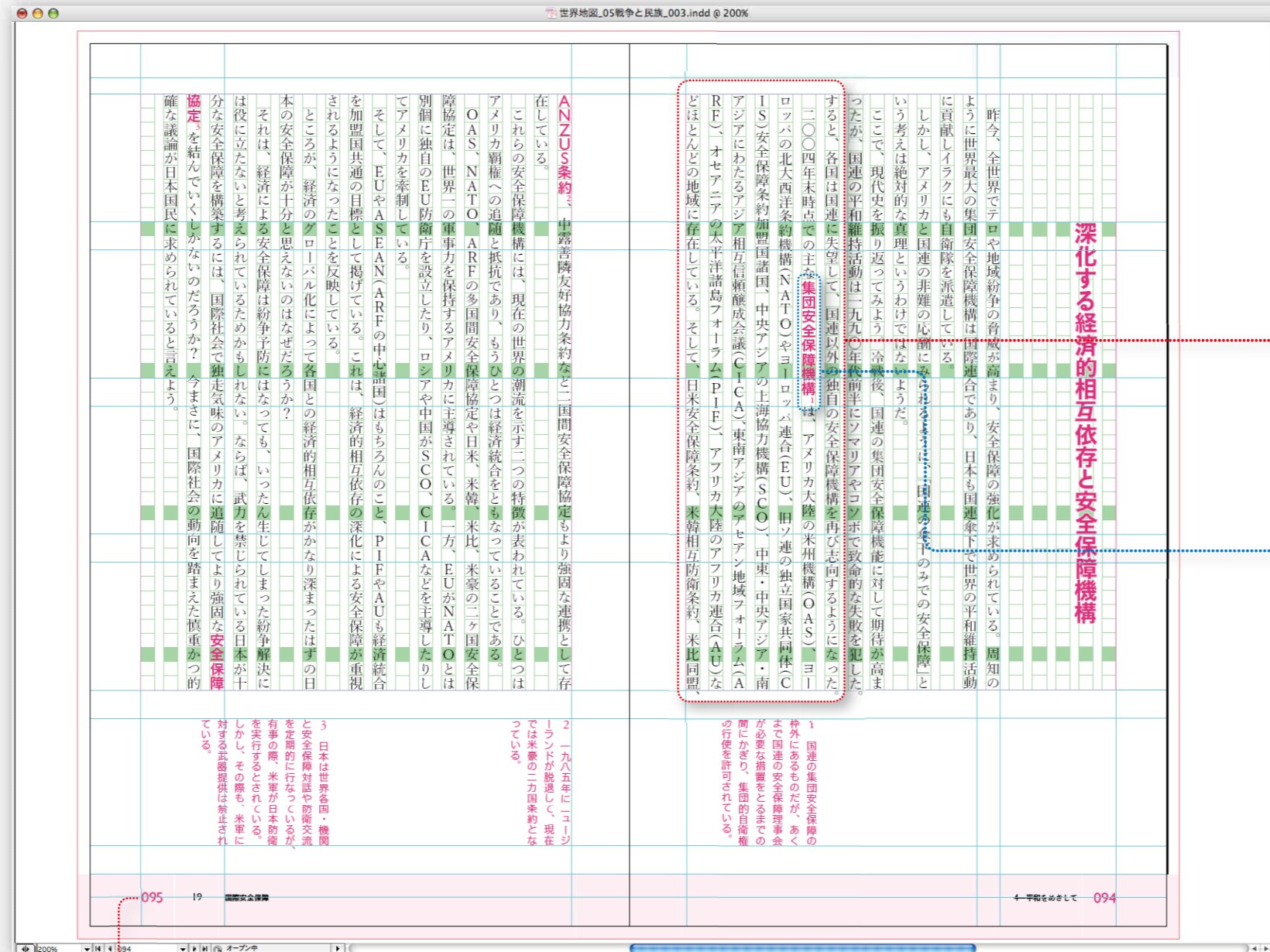
6 文字前・後のアキ量

文字の前または後ろのアキを「ベタへ全角」の範囲で調整できます。
日本語と「にほんご」、alphabet と 12345

7 カーニング:オプティカル

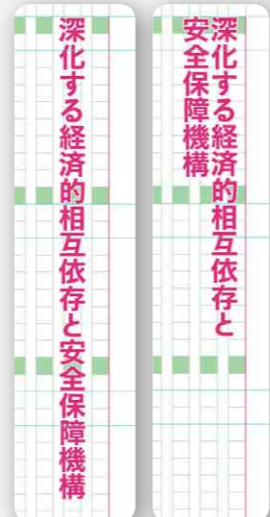
文字の形状に基づいて、隣接する文字の間隔が調整され、欧文文字用に最適化されています。原則として和文書体(2バイトフォント)への使用には適していません。

This is Adobe InDesignCS2, Typograph



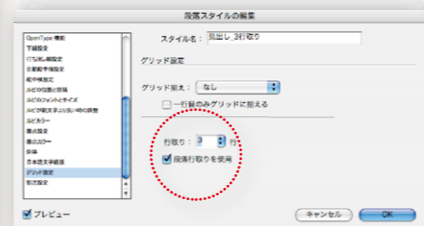
ノンブル

ページ数を表示するノンブルを自動的に入力するには、マスターページに配置したテキストフレームに、特殊文字の「自動ページ番号」を入力します。セクションの設定によって、ノンブルのスタイルや、開始番号を設定できます。



段落行取り

2行取り1行、3行取り2行といった見出しの設定が簡単に行えます。

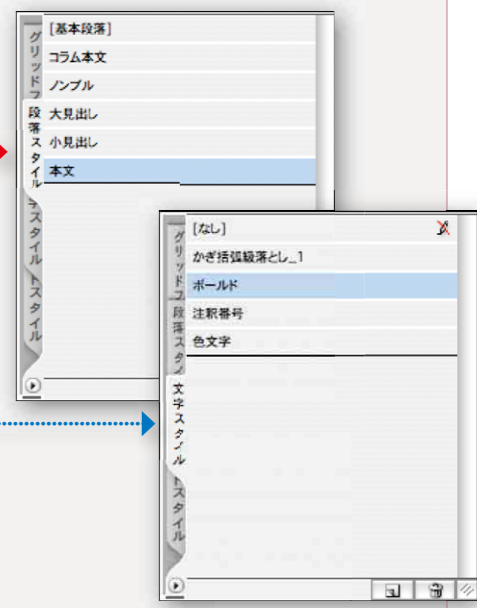


左図は3行取り1行。右図は強制改行をして3行取り2行にした状態。後に続くテキストの行送りは正確に維持される。

段落・文字スタイル

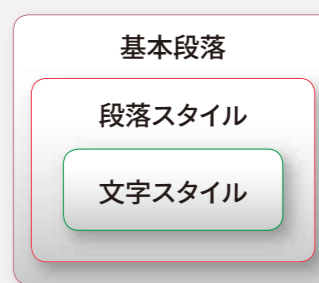
効率的な作業のために

配置したテキストを効率的にレイアウトするために必要なのが、段落と文字のスタイル設定です。スタイル設定をしておけば、全ページにわたる修正であっても、スタイルを修正するだけで全体に反映されます。



段落スタイルは段落に対して、文字スタイルは部分的な文字に対して適用する。文字スタイルは、段落内の一部の文字を強調する時などに使用する。

スタイルの相関関係について



スタイルは上図のような階層構造になっています。基本段落を継承して本文のスタイル、本文スタイルの設定を継承してコラム用のスタイルといった形でスタイルを作成すると、後にスタイルを編集する場合に効率的です。例えば基本段落で文字組みアキ量設定やルビの仕様を変更すると、継承されるスタイルすべてに反映されます。



4 タイポグラフィを支える さまざまな機能

表

InDesignは強力な柔軟性に富む表機能を持っています。セルの削除、挿入、結合・未結合、塗りや罫線の処理などもパレットで簡単に設定できます。また、エクセルのデータを読み込むことができるため、InDesign上では体裁を整えることに専念できます。



▶表の基本設定をする表パレット。行方向、列方向に対してのセルの数やテキストの位置、セルと文字の間隔などを詳細に設定できる。罫線の色や太さは線パレット、セルの色はカラーパレットで設定できる。

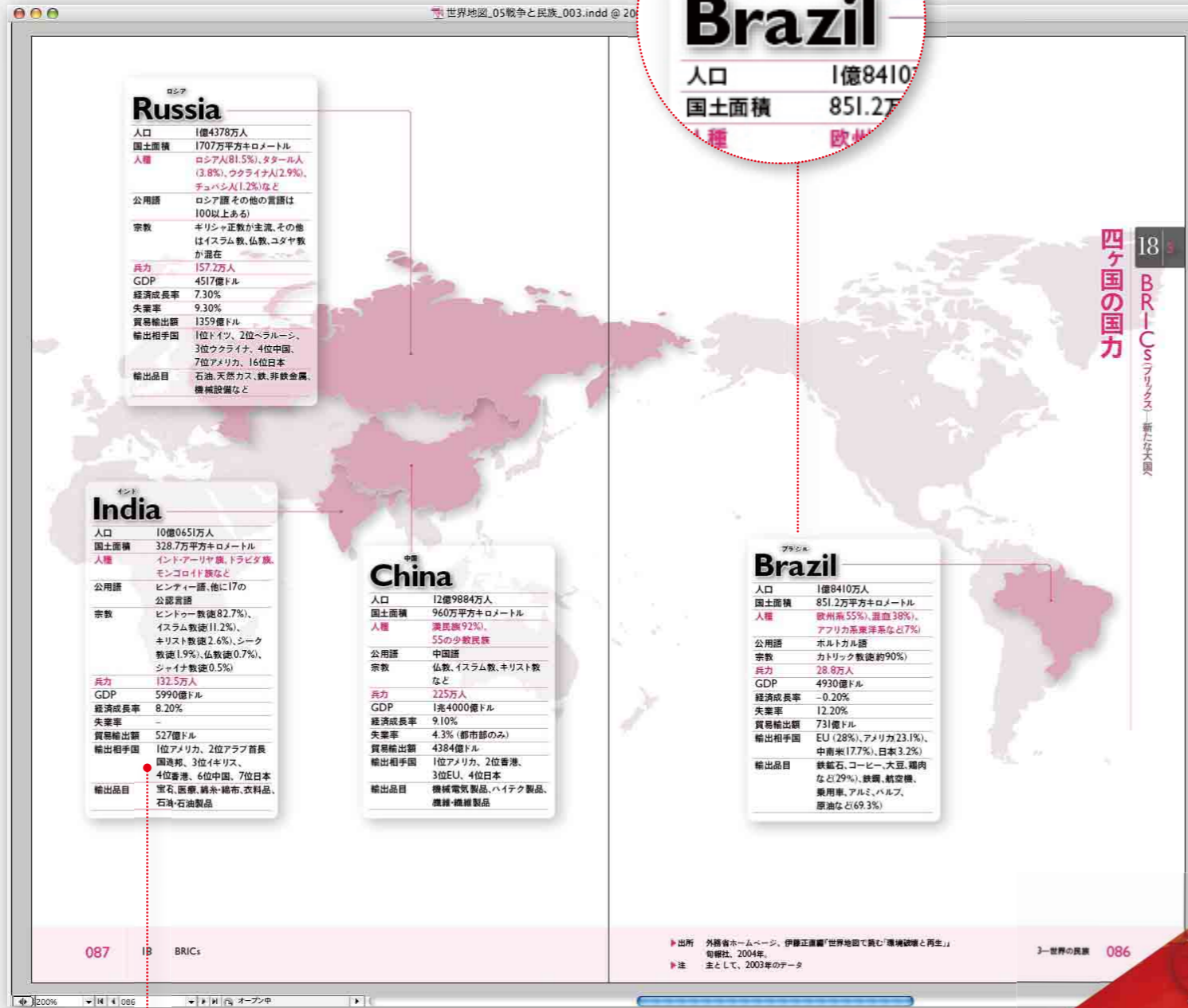
各国の核戦力(投射手段)

	アメリカ	ロシア	イギリス	フランス	中国
ミサイル ICBM (大陸間弾道ミサイル)	550基	735基 (内389基は単弾頭)	—	—	約30基
IRBM-MRBM (中距離弾道ミサイル)	—	—	—	—	約110基
SRBM (短距離弾道ミサイル)	—	—	—	—	約450基
SLBM (潜水艦発射弾道ミサイル)	432基	216基	58基	64基	12基 (単弾頭)
長距離戦略爆撃機	114機	78機	—	—	—

各国の核戦力(投射手段)

	アメリカ	ロシア	中国
ミサイル ICBM (大陸間弾道ミサイル)	550基	735基 (内389基は単弾頭)	約30基
IRBM-MRBM (中距離弾道ミサイル)	—	—	約110基
SRBM (短距離弾道ミサイル)	—	—	約450基
SLBM (潜水艦発射弾道ミサイル)	432基	216基	12基 (単弾頭)
長距離戦略爆撃機	114機	78機	—

▶表中の一部のセルを削除した状態。あとからセルを挿入したり入れ替えることもできる。



▶表機能を使ってレイアウトしたテキストフレーム。

その他の機能

ルビ・圏点

漢字の振り仮名を付けるルビ機能も充実しています。ルビ文字のフォントやサイズ、カラーなどに加え、親文字に対してルビの位置や間隔も設定できます。また、文字を強調するための圏点も、種類を選択するだけで簡単に付けられ、親文字に対して位置の設定も可能です。

アンカー付きオブジェクト

配置した画像フレームなどのオブジェクトの位置を、テキストと関連づけるのが「アンカー付きオブジェクト」機能。この機能を使うと、編集時にテキストの位置が移動しても、テキストと連動してオブジェクトも移動します。オブジェクトは、フレーム外に配置することも可能。ページもののレイアウトに威力を発揮します。

検索・置換

文字の検索・置換機能は、編集作業に欠かせません。InDesignでは、単純な文字の検索・置換だけでなく、検索と置換の両方に、文字書式を設定可能。たとえば「小塚明朝Pro Rの24級の文字を検索して20級に置換」のような使い方が可能です。また、半角カタカナを全角にカタカナに変換するなどの文字種変換も可能です。

Adobe 段落コンポーザ

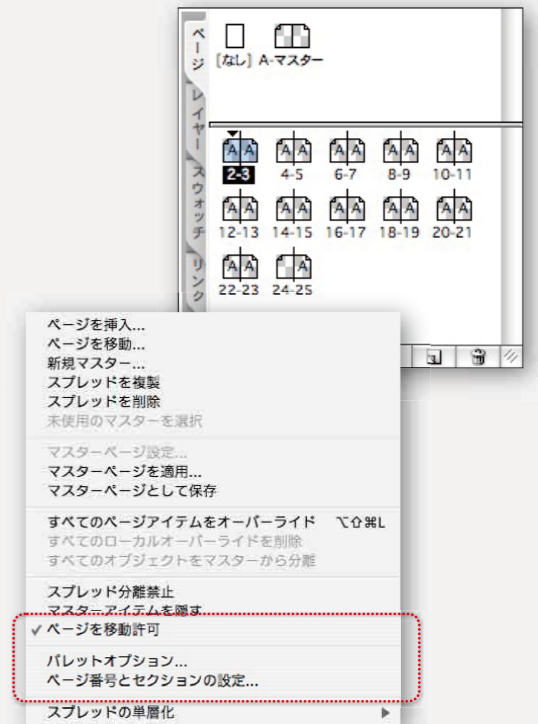
配置したテキストを適正な位置で改行し、美しい文字組版処理をするのがコンポーザの役割です。InDesignでは、段落単位で処理をする段落コンポーザと、行単位で処理する単数行コンポーザを、日本語用と欧文用にそれぞれ用意。初期設定は、日本語段落コンポーザで、美しい日本語組版が可能です。



▶テキストに対してドロップシャドウ(→P18)などの効果を加えることができる。

ページ番号と セクションの設定

ページ管理を行うページパレットでは、ページの入替え、挿入、削除をアイコンのドラッグによって簡単に行えます。マスターページの設定を反映させたり、ノンブルの開始位置を指定するセクションの指定も行えます。



▶「ページを移動許可」オプションを有効にすると、ページの削除や移動をしても、見開き状態が保持される。「ページパレットオプション」で、ページパレットのアイコンの表示方法を変更できる。ノンブルの開始番号やスタイルは、「ページ番号とセクションの設定」で設定する。



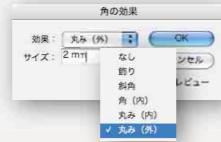
5 多彩なグラフィックエレメントの装飾効果

InDesignでレイアウトに多彩な表現を可能にするのが、グラフィック機能です。ベジェ曲線による基本図形の描画をはじめ、フレームを簡単に装飾する機能が、デザインの可能性を広げてくれます。



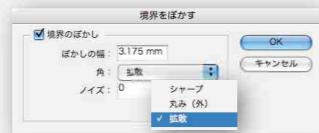
角の効果

元の図形を変更せずに、角の形状だけを変更できます。形状はリストから選択して大きさを指定するだけ。フレームの種類を問わないため、特殊な形状のテキストフレームやグラフィックフレームを簡単に作成できます。元の図形に戻すことも可能です。



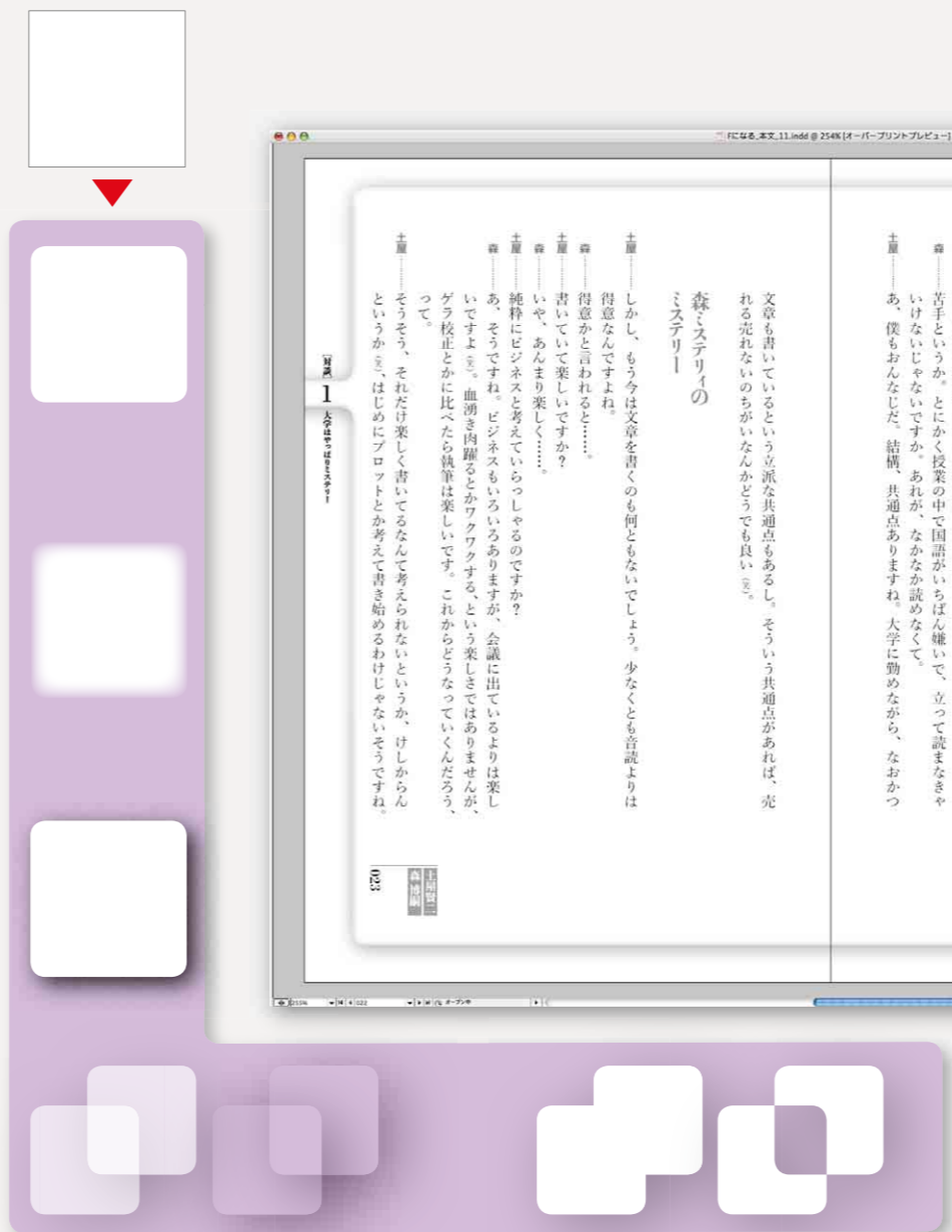
境界をぼかす

フレームの境界をぼかして、背景となじませることができます。設定によって、角の大きさやぼかしの幅、ノイズを加えることが可能です。



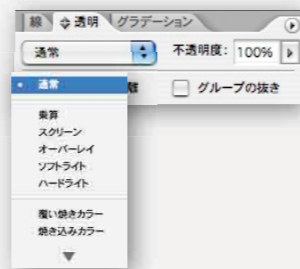
ドロップシャドウ

オブジェクトの立体感を出すのに必須の効果がドロップシャドウ。適用時に、影の不透明度やぼかし、位置やカラーなどを設定できます。透明のフレームに対して適用すれば、配置したテキストやグラフィックだけ影を付けることも可能です。



透明

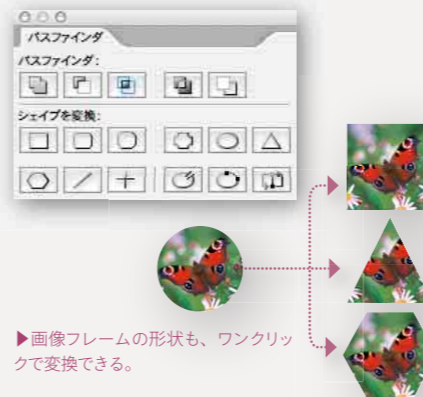
オブジェクトに対して「不透明度」を設定することで、背景に対して透明な色表現が可能になります。また、色が重なりあった箇所、前面のオブジェクトに「描画モード」を適用すると、背景と前面の色の関係によって色が合成され、不透明度とは異なる色の表現が可能になります。



▶描画モードは、リストから選択する。どのような効果になるのかを確認しながら適用するといいたい。

パスファインダ、シェイプを変換

「パスファインダ」を使えば、重ね合わせたオブジェクトを合成したり、重なった部分を抜き出すことができます。組み合わせることで、複雑な形状も、簡単に作成できます。また、「シェイプを変換」を使うと、オブジェクトの形状をワンクリックで変換できます。

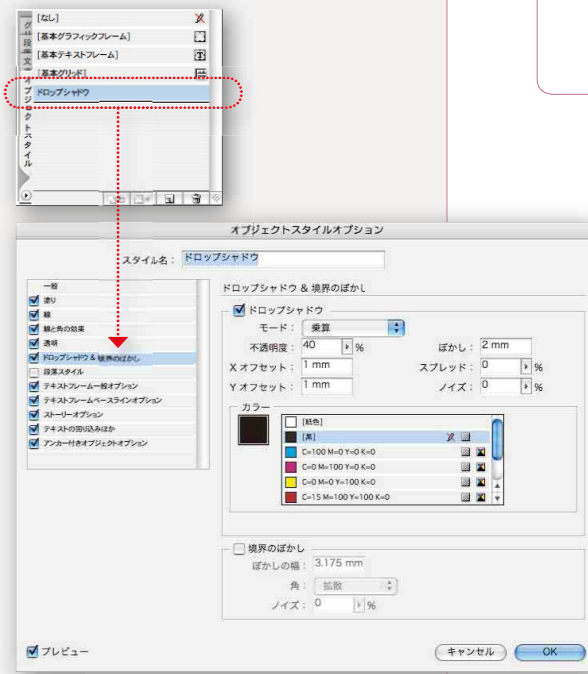


▶画像フレームの形状も、ワンクリックで変換できる。

- 1 新規ドキュメントを作る
- 2 合成フォントの設定、文字組みアキ量設定
- 3 文字・段落設定
- 4 テキストの配置・調整
- 5 画像の配置

オブジェクトスタイル

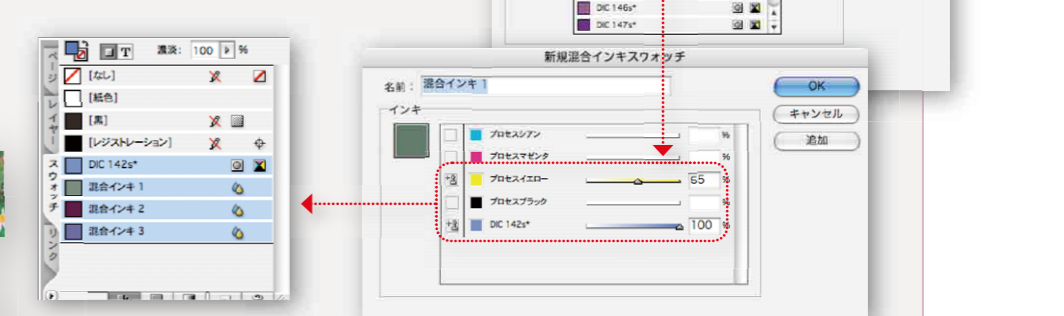
角の効果やドロップシャドウなど、各種フレームに適用する視覚効果をスタイルとして登録する機能がオブジェクトスタイルです。画像を配置するフレームの数が多い場合など、デザインの統一性を取るのに便利。設定を変更するだけで、適用したフレームの外観を一気に変更できるのも大きなメリットです。



▶本文の下に敷かれたポケ足のあるベース。角の効果、境界をぼかす、ドロップシャドウを組み合わせることで作成。この設定をオブジェクトスタイルに登録すれば、新規に作成したオブジェクトにワンクリックで設定を反映できる。

混合インキ(スウォッチ)

スウォッチパレットでは、特色と特色、特色とプロセスカラーを掛け合わせたカラーを混合インキカラーとして登録できます。特色のスウォッチを作成した後、オプションメニューから「新規混合インキスウォッチ」を選ぶと、混合インキにするためのカラースライダーが表示されるので、必要に応じて混合インキを作成します。



▶混合インキの作成手順。はじめに基本となる特色をスウォッチに登録し(上)、次に登録した特色とプロセスカラー(ここではイエロー)を重ねた混合インキを作成(下)。

Graphics

InDesignでは、オブジェクトの図形の形状や角の形状を簡単に変更できます。また、影を付けたりや境界をぼかすなどの視覚効果や、透明度の設定による背景色との合成によって、多彩な表現が可能です。

5 InDesignで 画像データをコントロールする

InDesignは、PhotoshopやIllustratorのネイティブフォーマットを読み込むことができます。調整レイヤーやレイヤーマスクを統合することなく配置できるため、修正作業も簡単に行えます。

配置した画像データも、不透明度と描画モードの設定によって、奥行きを出したり背景との調和を取ることが可能です。

PhotoshopやIllustratorでの処理が不要となり、作業効率が大幅に向上します。

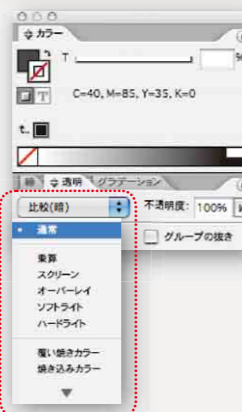


▶構成途中段階(上)と完成した状態(左)。

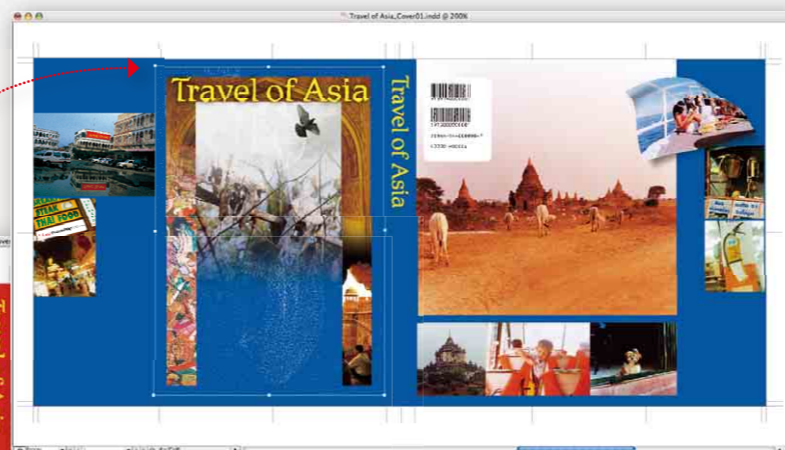
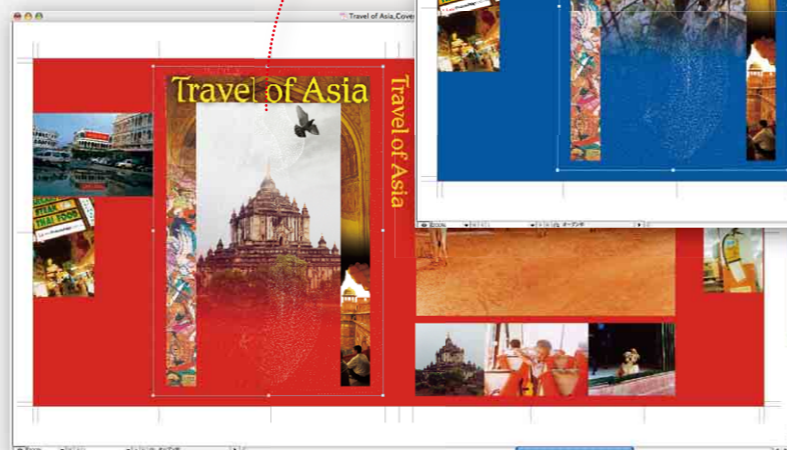


描画モードの調整で、 画像の重なりにも奥行きを

「東京ゲンジ物語」天樹征丸著、田島昭宇画(講談社刊)。本文の扉、目次部分をInDesignで作成。モノクロームで強烈な印象の田島氏のイラストを重ねることで、奥行きを出す効果を狙っています。「描画モード」を使えば、その効果を微妙にコントロールできます。

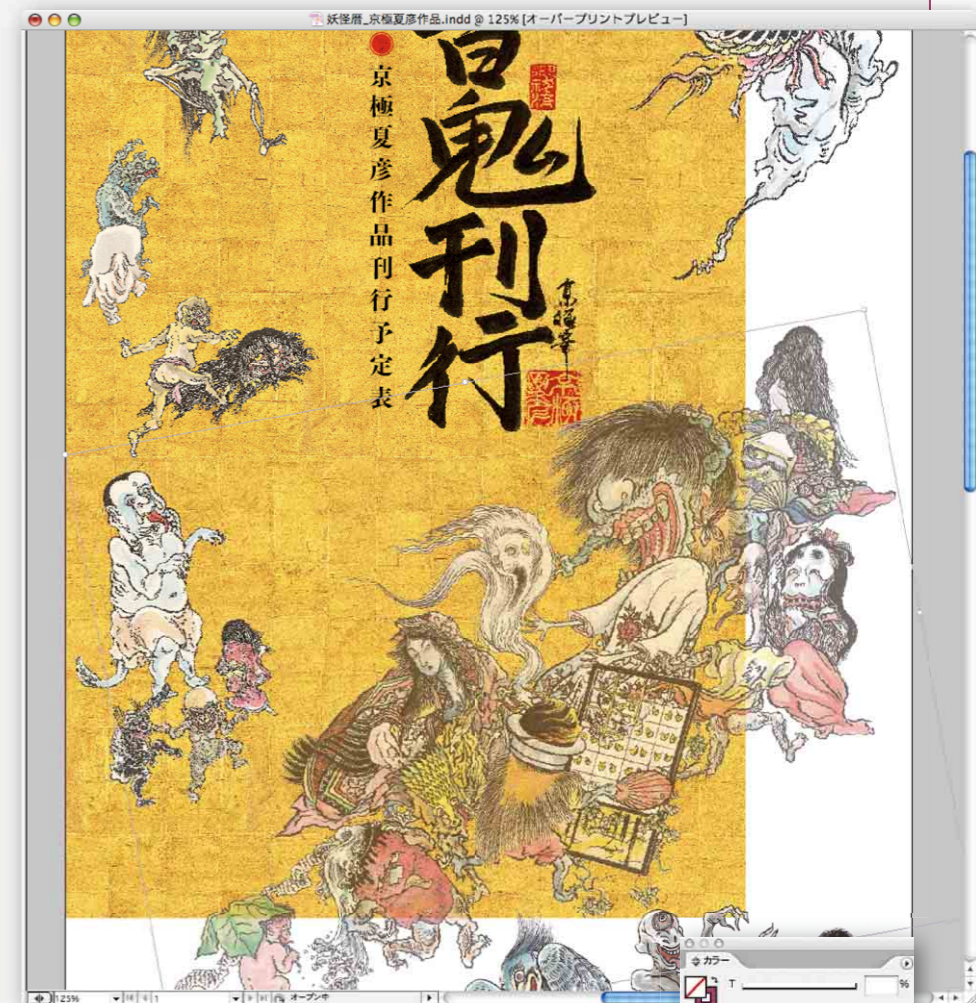


▶不透明度と描画モードを組み合わせることで、表現の幅が大きく広がる。

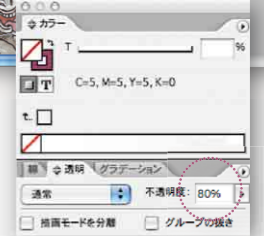


切り抜き画像なら InDesign上で構成

「画暦百鬼刊行」(講談社)。作家京極夏彦氏直筆の妖怪画で構成された贅沢な著作リスト。妖怪画全点をPhotoshopで切り抜き、InDesign上でレイアウトしています。

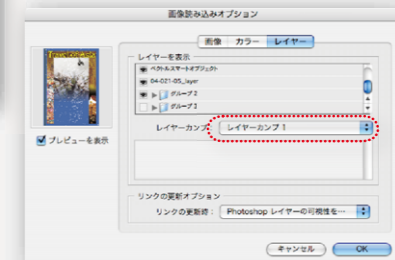


▶妖怪画像の不透明度を調整し、背景との透過具合を調整している。

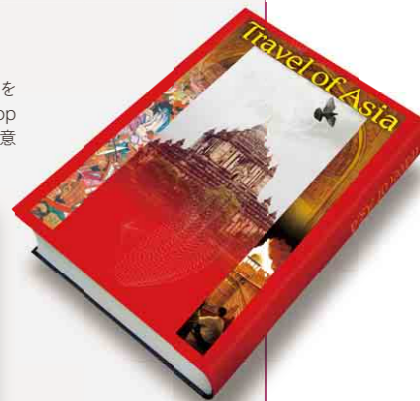


InDesignで装幀データを 効率的に作る

Photoshop エssenシャルガイドで作成した画像をInDesignで装幀データとしてレイアウト。Photoshopデータにレイヤーカンプがある場合は、レイヤーを任意に選んでInDesignに配置できます。



▶青い背景と写真によるレイヤーカンプを表示させている。Photoshopのファイルは1ファイル。

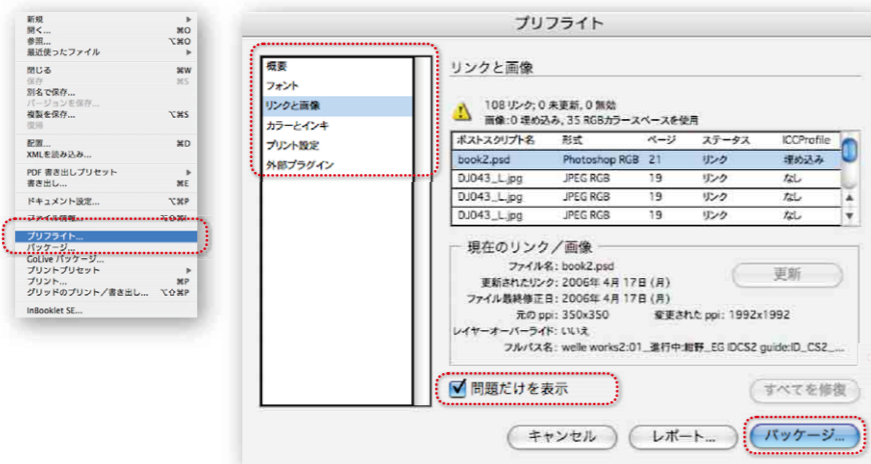


ネイティブで、PDFで、さまざまな入稿形態に柔軟に対応する

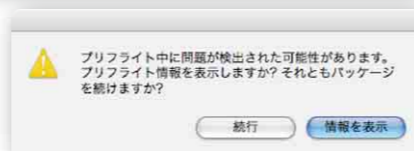
データが完成していざ入稿という段階になったとき、まずはプリフライトでデータを検証してください。RGBデータの混入は無い、リンク切れの画像はないかを自動的に検証します。

プリフライトに適合すれば、データをまとめて。ネイティブデータならばパッケージ機能でリンク画像と欧文フォントを一つのフォルダに自動収集。PDFならば書き出し機能でワンクリックで書き出すことができます。

プリフライト



入稿前に必ずしておくのがプリフライト。作成したドキュメントが、問題なく出力できるデータであるかをチェックする機能です。「フォント」「リンク画像」「カラーモード」など、出力トラブルの原因を事前にチェックすることで、入稿から印刷までのスムーズな進行が可能になります。



▶プリフライトに適合しなかった場合警告が表示される。この場合、警告内容にあわせてデータを修正し、警告がなくなるまでプリフライトを繰り返す。

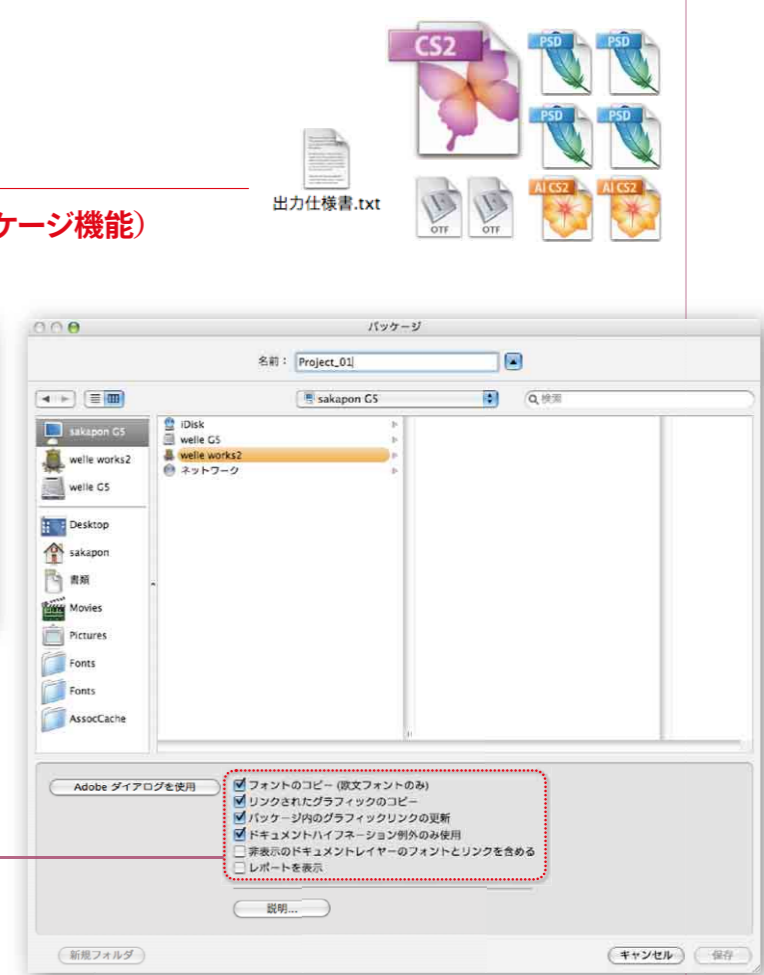
ネイティブで入稿 (パッケージ機能)

プリフライトに適合したら、そのままパッケージ化することができます。



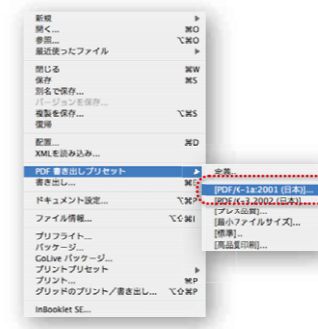
InDesignのネイティブデータで入稿する際に重要なのは、ドキュメント上に配置した画像データも一緒に渡すこと。これらの入稿に必要なデータを一つのフォルダにまとめる機能がパッケージです。ドキュメント内に使用している欧文フォントも一緒にパッケージ化できるため、出力に必要なファイルの漏れがありません。

▶フォントのコピーについて：Adobeのフォントソフトウェアについては、出力・印刷のために1回コピーすることが許可されています。他のフォントソフトウェアについては、各ベンダーのライセンス契約を確認してください。



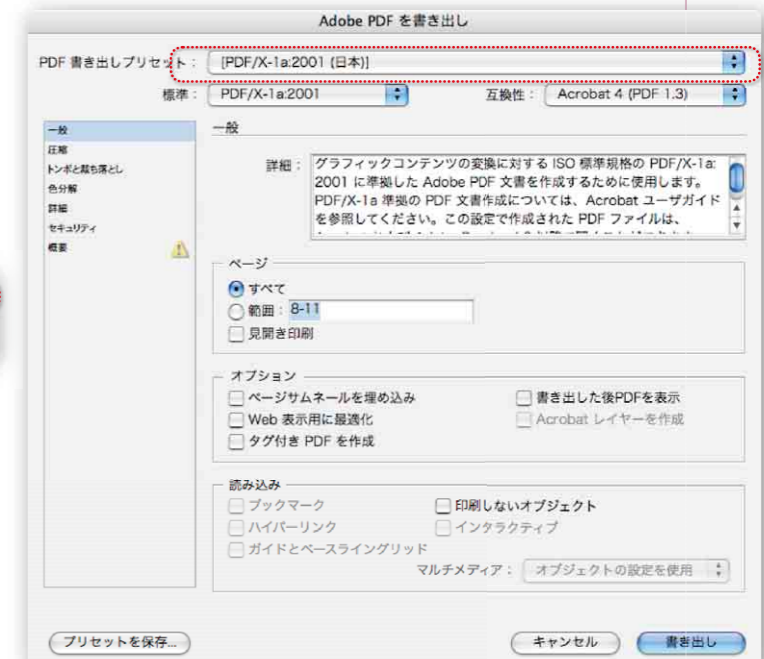
PDFで入稿 (PDF/X-1aを作成)

プリフライトに適合したら、安心してPDFを作ることができます。



データ入稿の新しい形態としてにわかに浸透しつつあるPDF。印刷用のPDF標準形式であるPDF/X1-aも、プリセットメニューを選択するだけで作成できます。PDF入稿であれば、フォントや画像の出力に必要なすべての要素がファイル内に埋め込まれるため、1ファイルだけを入稿すればOK。ネイティブデータでは全体で数GBになるデータ容量も、オンラインで送信できるほど圧縮できます。

▶注意：トンボと裁ち落としの設定については、PDFファイルをどのように面付けて印刷するかによって変わるため、出力・印刷会社のオプション設定です。入稿前に入力・印刷会社に問い合わせるから設定してください。



入稿前に確認しておきたいその他の項目

分割・統合のプレビュー

透明を適用した部分は、オブジェクトを細かく分割して出力します。分割してもPostScript処理できない部分は、ビットマップ画像として出力します。「分割・統合」パレットを使えば、どの部分が分割・統合処理されるかをプレビューできます。出力前にチェックしておくことで、エラーの起きやすい箇所を把握しておくことが可能です。

分版プレビュー

「分版」パレットを使えば、指定した版ごとの出力状態をモニターでプレビューできます。また、ドキュメント内でカーソルを重ねた箇所が、出力時にどのような割合で分解出力されるかをリアルタイムでモニタリングすることもできます。

Output

InDesignは、ドキュメント制作の最終段階である、

入稿に関しても強力な機能がバックアップ。

商用印刷のための入稿データの作成は、プリフライトとパッケージで万全。

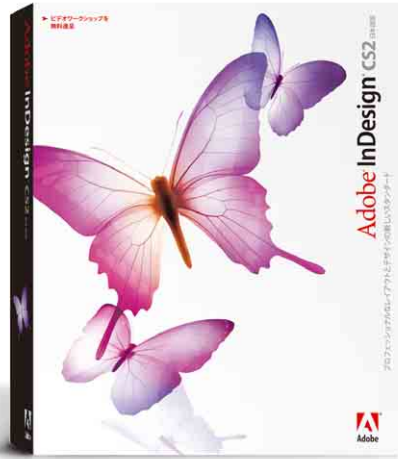
これからの入稿形態であるPDF/X1-aファイルの作成もメニューから選択するだけOKです。

Adobe® InDesign® CS2 日本語版

プロフェッショナルなレイアウトとデザインの新しいスタンダード

Adobe InDesign CS2は、日本のデザイン、パブリッシングにおける創造性と生産性を新たなレベルへと引き上げます。他のページレイアウトソフトでは類を見ない、パワフルなグラフィックおよびテキスト編集ツールを搭載。

さらに、すべてのCS2アプリケーションとの密接な連携により、かつてない自由な制作環境と効率的なワークフローを提供します。



Windows®/Macintosh®

必要システム構成

Macintosh®

- PowerPC®G3、G4またはG5プロセッサ* (G4またはG5プロセッサを推奨)
- Mac OS X v.10.2.8~10.4 (10.3.4~10.4を推奨)
- 256MB以上のRAM (320MB以上を推奨)
- 870MB以上の空き容量のあるハードディスクドライブ
- 1024×768以上の画面解像度をサポートするディスプレイ
- 16bit以上のカラー表示が可能なディスプレイ、ビデオカード (24bitカラー以上を推奨)
- CD-ROMドライブ
- マルチメディア機能を使用するにはQuickTime 6.5が必要
- プロダクトアクティベーション (ライセンス認証) のためにインターネット接続または電話回線
- Adobe Stock Photosや付随するサービスのためにブロードバンドインターネット接続
- *PowerPC®G5にはMac OS X 10.3以上が必要です

Windows®

- インテル®Pentium®IIIまたは4プロセッサを搭載したパーソナルコンピュータ
- Microsoft®Windows®2000日本語版Service Pack 4、またはWindows XP日本語版 (Service Pack 1または2)
- 256MB以上のRAM (320MB以上を推奨)
- 850MB以上の空き容量のあるハードディスクドライブ
- 1024×768以上の画面解像度をサポートするディスプレイ
- 16bit以上のカラー表示が可能なディスプレイ、ビデオカード (24bitカラー以上を推奨)
- CD-ROMドライブ
- マルチメディア機能を使用するにはQuickTime 6.5が必要
- プロダクトアクティベーション (ライセンス認証) のためにインターネット接続または電話回線
- Adobe Stock Photosや付随するサービスのためにブロードバンドインターネット接続

Essential Guideシリーズ

すべてのグラフィックユーザーに向けて、Adobe Creative Suite 2のエッセンスを凝縮したガイドブックです。

<http://www.adobe.com/jp/print/printproinfo.html>



▶ **アドビ カスタマー サービス** Tel. ナビダイヤル 0570-06-7337 または 03-5350-0407 電話受付時間 9:30~17:30 (土、日、祝日および弊社指定休日を除く)
▶ **アドビストア (注文専用)** フリーダイヤル 0120-61-3884

Better by Adobe.™

アドビ システムズ 株式会社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー www.adobe.co.jp

このカタログに記載の情報は、2006年7月現在の情報です。内容に関しては予告なく変更される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

Adobe、Adobeロゴ、Adobe Illustrator、Adobe Reader、Acrobat、Distiller、GoLive、InCopy、InDesign、Photoshop、PostScript、PostScript 3は、Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。MacおよびMacintoshは、米国および他の国々におけるApple Computer, Inc.の登録商標です。インテルおよびPentiumは、アメリカ合衆国および他の国におけるインテルコーポレーションおよび子会社の登録商標または商標です。PowerPCは、International Business Machines Corporationの米国ならびに他の国における登録商標です。MicrosoftおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国ならびに他の国における商標または登録商標です。その他すべての商標は、それぞれの権利帰属者の所有物です。©2006 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved. ASJST598 7/06

